憲法公布72周年のつどい

改憲させないために何ができるか

飯田清久

　11月17日、グリーンホールで開かれた今年の集い。「世界平和アピール七人委員会」の著名な講師5人による、重厚なミニ講演とパネルディスカッション。まとめることの不十分さを自覚しつつ、以下報告します。

＜宇宙物理学者池内了氏＞

「世界平和アピール七人委員会」の歩みを解説。東西の厳しい冷戦のさなか、ビキニ水爆実験による被災の翌年の1955年、平凡社創立者の下中弥三郎氏の呼びかけに湯川秀樹博士や平塚らいてう氏らが応え発足。以来世界に平和アピールを発し続けてきた。最近では、「安倍内閣の退陣を求める」（2018年6月No130）を発表。そこには「5年半の安倍政権下で、日本人の道義は地に落ちた。私たちは、国内においては国民・国会を欺いて国政を私物化し、外交においては世界とアジアの緊張感になおも背を向けている安倍政権を、これ以上許容できない」としアピールとしては異例の内閣退陣を求めた。

＜写真家　大石芳野氏＞

ベトナム戦争による枯葉剤・ダイオキシン・三世代障害。アフガニスタンでは米ソがもたらした空爆・クラスター爆弾による街の荒廃。自衛隊も行った南スーダンのこどもも難民の姿。73年前の広島・長崎の被爆、沖縄の集団自決、アジア諸国での虐殺行為。そして今もなお、辺野古の海岸に横たわる鉄条網が物語る沖縄の米軍支配。写真をとおして、戦争になったらどうなるかを伝えたい厳粛な思いを切々と語ってくれた。

＜作家　高村薫氏＞

安倍政権を支持する4割の人々をどうするか。「戦争は起こらない」「安倍でいいや」の背景にある都合の悪いことはスルーする、筋の通らないことを気にしない社会を危惧。気に入らないものはフェイクと切り捨て、言葉で築き上げる理想が劣化し真実が崩壊していく現実に危機感。政治にはウソがつきもの。イデオロギー以前にウソは許さない！4割の人に「騙されてはならない」と訴える。

＜国際政治学者　武者小路公秀氏＞

本来の平和学における「積極的平和主義」の立場から、安倍首相の主張した「積極的平和主義」を批判。さらにはトランプ政権による「アメリカ第一主義」によって、世界各地域でのマイノリティや先住民族、難民への差別や憎悪を扇動し、世界規模で新たなファシズムが台頭していることを分析。米国や西欧そして日本の市民たちは、反核・反帝国主義のために協力する平和学における「積極的平和」の立場から一致協力して、地球上の生命を全滅させかねない新冷戦に対抗しなければならないと説く。

＜物理学者　小沼通二氏＞

「過去に戻らず、未来を拓くために」をテーマに、「世界平和アピール七人委員会」の歩みと果してきた歴史的役割を解説。そしてアメリカの核弾道保有数を分析し、削減から新たな大型軍拡化に邁進していることを紹介。核兵器禁止条約の重要性を訴える。さらに今われわれに何ができるかとして、少子高齢化・財政赤字・国土狭隘の日本の軍事化は現実的でないこと、安保条約や地位協定の不合理性を直視すること、他国が脅威を感じない国にするための抜本的な路線見直しを行うことなどを語る。

＜パネルディスカッション＞

○「より真剣に想像力を働かせよう」がキーワード。カメラに向かって彼らは、「戦争は嫌なんだ」「もう二度と経験させないようにしよう」と発信している。それらを感じ受けとめる能力、表現し発信する言葉の力を高めよう。

○「アベ政治でまあいいや」という4割に人たちへの対話を大切に。戦争を起こした政治家・軍人は決して優秀ではない、優秀なら戦争を起こしていない。アベ・トランプレベルの言葉や能力に陥るともっとひどい政治が引き起こされる。

○政府・財界は科学者の軍事研究従事を誘導しているが、大学の応募数は減っている。地元マスコミが市民の疑問・批判を取り上げることが、地域貢献を標榜する大学の応募抑止力になっている。市民レベルでチェックし声を上げることが大切。

○あきらめ、絶望はすべての終わりを意味している。為政者への文句や批判が出なくなりやりたい放題の政治がまかり通る。楽観主義を根底に、この1～2年が改憲阻止の正念場であることをみんなで共有しよう。

障害児・者への十分な理解と合理的な配慮と正しい教育的対応を

（人権共闘と市教委の懇談から）

田中　正

　五月に高知市の公立中学校で発達障害をもつ一年生の男子生徒を男性教員二人が押さえつけた際にパニックを起こし、教員が軽傷を負ったことを「暴力事件」として学校長・学校側が警察に被害届を出し、また保護者に「治療費」を請求するという事例が発生し、このことについて「人権共闘」（人権と民主主義、教育と自治を守る県共闘会議）が十一月十五日に高知市教育委員会と懇談した。

　この事例では、学校側が、当該生徒がパニックになった原因やその時点での教育的対応についても「振り返ら」ず、三週間もたってから生徒がラインで「もう生きる喜びゼロ」と書くなど大きく落ち込んでいる状況をも配慮せず、保護者に「暴力を振り返ってもらうため」、そして「警察に暴力行為だと判断してもらうため」に警察に被害届を出したことや、入学児の小学校中学校間での情報共有や引継ぎ、年度当初の職員会議で情報共有や教育対応も検討しているといいながら、事例発生時には個別の支援計画も作成されていないなど不十分さと疑問点も多い。

　市教委（前）教育長や中学校側の「保護者との認識が埋まらないため」に被害届や治療費の請求を出したが、生徒に精神的負担や保護者の学校側や教育への不信感が生ずるなら納得できる説明が必要であったという後付け的言い訳も妙だ。しかしその後の高知市議会での教育長職務代理者の「教育委員会の会議にも議事として報告したい」「第三者による検証も必要である」等の答弁などは、障害者支援法での発達障害児への合理的配慮の義務付けの必要性や教育者としての信念を述べたものと頼もしく感じられた。懇談に参加して、保護者や児童生徒が心から信頼できる学校教育と教育行政を展開してもらいたいと強く思った。

　この一年、高知市教委にはこの事例や課長級職員のセクハラ（四月）、前教育長の不可解な辞任（七月）、小六引きずり擦過傷（十月）などいろいろな目も覆うこともあり、全ての児童・生徒が安心して楽しく学べる学校づくり、保護者や高知市民が理解し納得できる教育行政を期待したい。

書記局におります

胡摩崎ゆう子（^^♪

　高退協のみなさんこんにちは、39年お世話になった書記局を退職して10年、みなさんに教えて頂いたことを基本に、地域やいろいろな分野を駆け巡っておりましたが、私の後任の書記さんが9月末で退職されたため、年度末までのつなぎで書記局のお手伝いをすることになり、火～金曜日書記局にきております。この10年間での学校現場、書記局の変わりように驚き、戸惑っております。高退協の方たちが書記局を訪れてくれるとほっとしているこの頃です。高知城近くにお越しの際は、ぜひ高知城ホール3階高教組書記局にお立ち寄りくださ～い。

ビキニ核被災国家賠償訴訟判決

高松高裁控訴審は2019年1月22日（火）

午後1時15分～　となりました。

本年もよろしくお願いします

高退協ニュースは奇数月発行です。

皆様方の投稿をお待ちしております。

高退協　事務局

2019 高退協　初歩き・新春懇親会

◎日時

2019年1月8日（火）

◎行き先・申し込み等は

今回同封の案内チラシを

ごらんください。